

情報システムユーザー企業の競争力強化に向けた参照モデルの提供

～「使いやすさ」「分かりやすさ」をコンセプトとした、
情報システムユーザースキル標準¹の改訂と関連文書の充実 ～

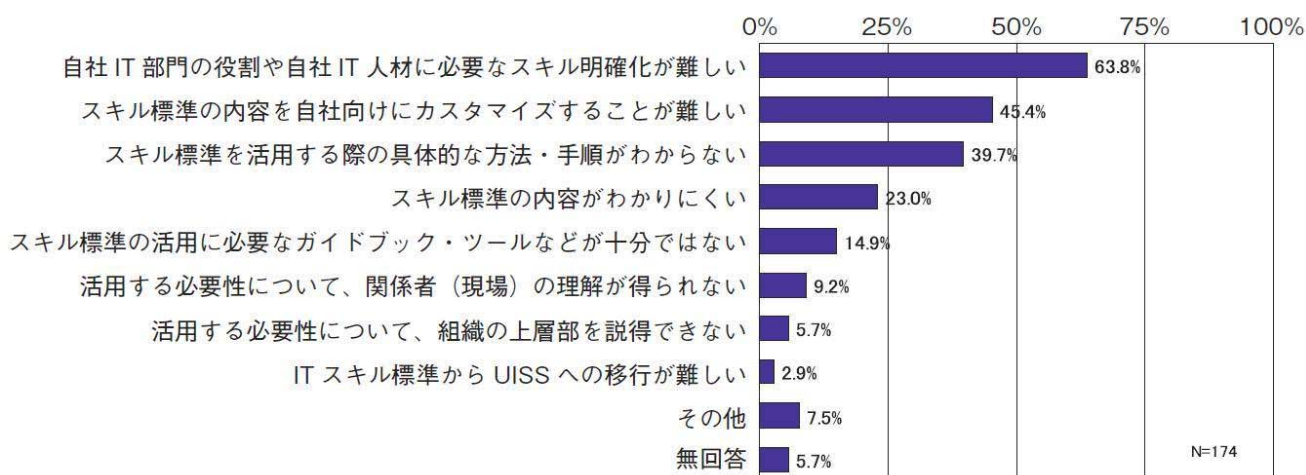
IPA（独立行政法人情報処理推進機構、理事長：西垣 浩司）は、情報システムユーザー企業における適切な人材配置とそれによるユーザー企業の競争力強化を目的として、「情報システムユーザースキル標準 Ver. 2.2」とその関連文書を、2010年3月31日からIPAのWebサイトで公開しました。

URL：http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/uiiss/uiiss_download_Ver2_2.html

IPAでは情報システムユーザー企業における情報システム（以下「IS」）の利用に関する課題の解決に資するものとして、情報システムユーザースキル標準（以下「UISS」）を公開しています。

「IT人材白書 2009」によれば、スキル標準を利用している企業が感じている課題として、「自社のIT人材に必要なスキルの明確化が難しい」との回答が最も多く挙げられています。また、従業員規模が大きくなるほど、前述した回答の割合が高くなる傾向があります。それに対して、「スキル標準がわかりにくい」との回答は、従業員規模が小さな企業ほど高くなる傾向にあります。「活用する際の具体的な方法がわからない」との回答も全体の4割近くにのぼっており、それらの課題解決の取組みが望まれています。（図1、図2）

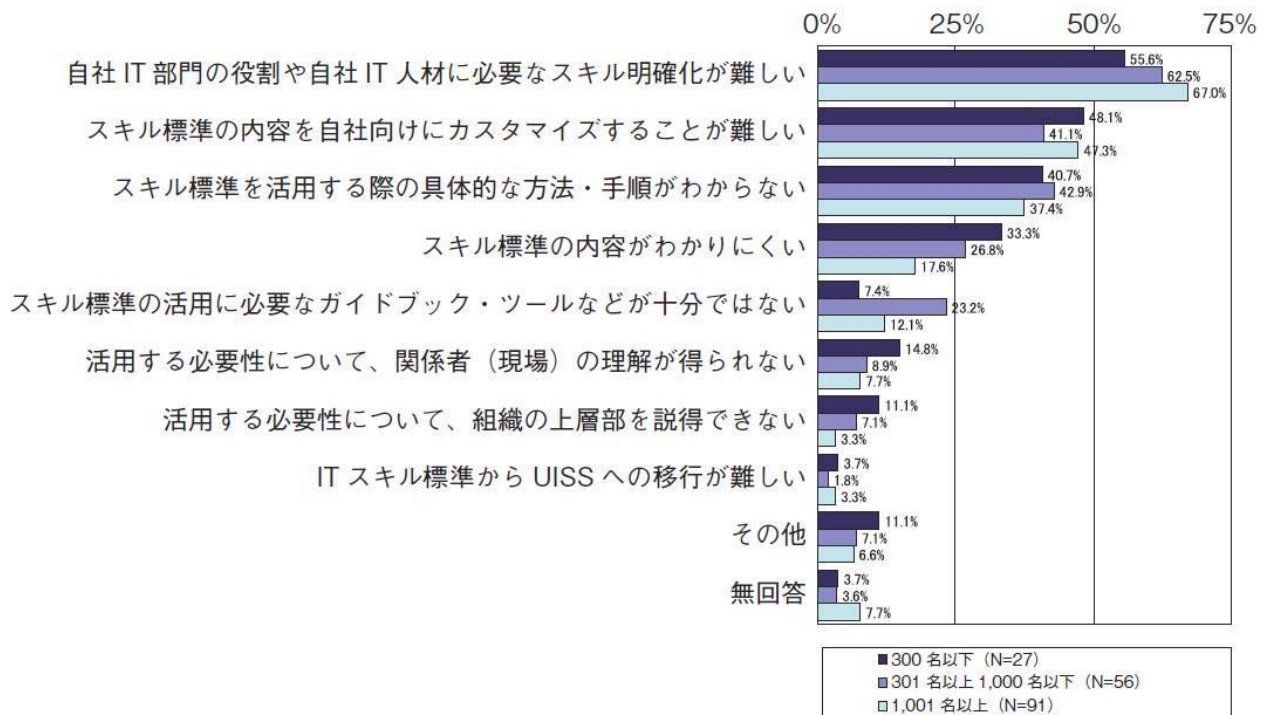
2009年度のUISS活用促進事業では、上記の背景からUISSの導入・活用がより容易となることを目的に、「使いやすさ」「分かりやすさ」をコンセプトとして、UISS Ver.2.2と関連文書である、①有効活用ガイド Ver.3.0、②モデルカリキュラム（4コース）、③研修コース設計ガイド Ver.1.0、④導入テンプレート Ver.1.0を作成しました。



<図1:スキル標準の利用に関する課題>

出典：IT人材白書 2009

¹情報システムユーザースキル標準（UISS：Users' Information Systems Skill Standards）は、情報システムユーザー企業における適切な人材配置の促進と、それによるユーザー企業の競争力強化に資することを目的として、組織や人材に必要なスキルおよび知識を、網羅的かつ体系的に整理・一覧化したものです。



< 図 2:スキル標準の利用に関する課題（従業員規模別） >

出典：IT 人材白書 2009

◆公開したドキュメントによる効果

公開した UISS および各関連文書の利用を通して、UISS の導入が促進されることにより、情報システムユーザー企業における「組織力強化」「人材育成」「人材調達」の面で、以下の効果が期待できます。

- －経営戦略の視点から各企業が自社に必要な IS 機能の全体像を可視化できる。
- －求められるスキルや知識を明確にすることにより、IS 部門や IS 活用部門など、IS に携わる人材の最適な配置と育成を実現できる。
- －IS の構築・運用に関わる一連の「調達」「評価」「利活用」に関する機能とスキルを定義することで、IS 発注者としての能力向上を実現できる。

◆UISS および関連文書は以下の URL からダウンロードできます。

http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/uiiss/uiiss_download_Ver2_2.html

■本件に関するお問い合わせ先

IPA IT 人材育成本部 IT スキル標準センター 島田／山本
Tel: 03-5978-7544 Fax: 03-5978-7516

■報道関係からのお問い合わせ先

IPA 戦略企画部広報グループ 横山／大海
Tel: 03-5978-7503 Fax: 03-5978-7510 E-mail: pr-inq@ipa.go.jp

◆今回作成した UISS および関連文書の概要

◇UISS Ver.2.2

UISS は、情報システムユーザー企業における適切な人材配置の促進と、それによるユーザー企業の競争力強化に資することを目的として、組織や人材に必要なスキルおよび知識を網羅的かつ体系的に整理・一覧化したものです。

UISS Ver.2.2 では、各企業における UISS の普及に向けた使い勝手の向上を主眼に、機能・役割定義の見直しを行いました。具体的な改訂のポイントは以下の通りです。

(1) 機能・役割定義で直接 IT スキル標準²を参照している箇所の書き下ろし

機能・役割定義の各 IS 機能に求められるスキル・知識項目のうち、IT スキル標準を参照する箇所について、業務機能の見直しをはかるとともに、スキル・知識項目を機能に対応する形式に書き下ろしました。

(2) IS 活用の具体化

タスク自身の目的が理解しやすいものになるよう、IS 活用に関する業務機能およびスキル・知識項目を見直しました。

◇有効活用ガイド Ver.3.0

本書は、UISS を効果的に活用するために、自社の経営戦略に基づいて自らが IS に関する機能や役割を明確化した「企業毎の IS 組織・人材・スキルのモデル」を作成する手順を解説しています。第 1 部では、UISS を参照して「企業毎の IS 組織・人材・スキルのモデル」を作成する際の前提となる「UISS の考え方と位置づけ」を解説し、第 2 部では、具体的に企業毎の「IS 組織・人材・スキルのモデル」を作成する際の作成手順や考慮すべき点を、活用プロセスの手順に沿って解説しています。

◇モデルカリキュラム

モデルカリキュラムとは、研修ロードマップに従って研修コースを設計する場合の参考情報を提供するもので、各研修科目に属する全ての研修コースについてのカリキュラム例を記述しています。2008 年度に公開した「IS 入門編 Ver.2.0」「セキュリティ編 Ver.2.2」につづき、今年度は情報システムユーザー企業にとって優先度の高い「プロジェクトマネジメント編 Ver.1.0」「IS 活用編 Ver.1.0」「事業戦略&IS 戦略編 Ver.1.0」「セキュリティ編 Ver.2.3」の 4 コースを作成しました。

◇研修コース設計ガイド Ver.1.0

本書は、有効活用ガイドで示した研修計画策定において、研修ロードマップやモデルカリキュラムを参照し、研修計画やカリキュラムの策定をする際の手順について、分かりやすく解説しています。第 1 章では本書の利用方法、第 2 章では研修コースを設計する際に参照するドキュメントを解説し、第 3 章では研修コースの設計手順を工程別に解説しています。

◇導入テンプレート Ver.1.0

UISS の効果的・効率的な導入を目的として、IS 推進体制（自社、情報子会社、IT ベンダーを活用）の違いを考慮して定義したテンプレートです（IS 推進体制の違いにより 6 パターンを用意）。

テンプレートは、「タスク一覧」「タスクとスキルの関係」「キャリアフレームワーク」「人材像とタスクの関係」等のワークシート（サンプル）集であり、次の 3 つの場面①UISS 導入手順の理解、②UISS 導入の初期作業の効率化・作業軽減、③UISS 本格活用前の検証作業、において有効なツールです。

² IT スキル標準とは、各種 IT 関連サービスの提供に必要な能力を明確化・体系化した指標であり、産学における IT サービス・プロフェッショナルの教育・訓練等に有用な「ものさし」（共通枠組）を提供しようとするものです。